



「北京国際旅游博覧会2024」で日本の魅力を発信

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 薦田 拓巳 (愛媛県派遣)

2024年6月14日から16日まで、北京市で「北京国際旅游博覧会 (BITE 2024)」が開催され、クリア北京事務所は日本政府観光局 (JNTO) 北京事務所とともにジャパンパビリオンを出展しました。

BITE とは

BITE は、中国旅游協会が主催する北京最大の旅行博覧会で、19回目となる今回は、旅行業界関係者や一般来場者合わせて約5万人が来場しました。

毎年数多くの国・地域から数百社が出展する総合観光展覧会であり、観光を切り口として、観光+科学技術、観光+レクリエーション、観光+スポーツなど、幅広い業種のPRの場となっています。

例えば、観光+レクリエーションの枠組みとして、現在中国で空前のブームを迎えているキャンプについて、約200㎡ものスペースを用いてキャンピングカーの試乗体験やキャンプグッズの展示などが行われました。

公式発表によると、2024年は国内企業が267社、海外企業が49社、計316社が出展しました。地域別で見ると、海外企業は、アジアとヨーロッパからそれぞれ50%ずつとなっており、中国からアクセスの良いユーラシア大陸に位置する国の企業が主として出展しているように見受けられました。中国企業は、北京市を含む華北地域が最多の34%を占めているほかは、各地域10%程度ずつとバランス良く出展しており、いずれの地域も本博覧会での出展について、意欲と関心を持っていることがうかがえます。

クリアブースでの取り組み

クリアブースでは、全国の自治体パンフレットの配布や観光動画の放映、自治体ノベルティグッズなどが当たる抽選会などを実施しました。

また、クリア北京事務所の確保したブースにおいて、各自治体からも出展を募り、応募があった山形県、徳島県、チーム昇龍道 (福井県、長野県、愛知県、静岡県)、チーム九州 (福岡県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県)、沖縄県、新潟市、横浜市、北九州市の在中国自治体事務所とともに、観光PRを実施しました。



にぎわいを見せる自治体ブース

ブース訪問者の多くに訪日経験があり、「東京や大阪、京都などの『ゴールデンルート』は巡ったので、それ以外にお勧めの地域はないか」との質問が多く寄せられました。その際、漠然と訪問先を探しているわけではなく、「花火大会」や「温泉」など目的を持って検討している人が多い印象を受けました。これは、中国の旅行のスタイルがゴールデンルートなどのパッケージ化された王道ルートを巡る団体旅行から、旅行者個人の興味・関心のある地域に焦点を絞った個人旅行へと移り変わって来ていることの表れであると考えます。そのため、関心のあるテーマが表紙に打ち出されているパンフレットをまとめて持ち帰る来場者が多く見受けられました。

さらに、パンフレットと併せて、印刷した日本地図も配布しました。自治体の具体的な位置や東京・大阪から



のアクセス方法を視覚的に説明することができ、大変喜ばれました。

抽選会においては、「ガラガラ（回転抽選機）」を初めてするという来場者も多く、大いに盛り上がりました。抽選結果に一喜一憂しながらも、当たった自治体ノベルティグッズを楽しそうに周りを見せている様子はとても印象的でした。

これらの取り組みの結果、最終的に約 4,000 枚のパンフレットを配布し、各自治体の魅力を多くの来場者に伝えることができました。



クリアブースでの対応の様子

JNTO との連携

今回、JNTO と連携し、2 つの取り組みを実施しました。

1 つ目として、昨年に引き続き JNTO の PR ステージにおいて、クリア職員が派遣元自治体の観光地や特産品について、自治体 PR ムービーの放映も交えながら、中国語でプレゼンテーションを行いました。

中国語での発表では、プレゼン内容はもちろん重要ですが、それ以上に「外国人が一生懸命中国語を話してい

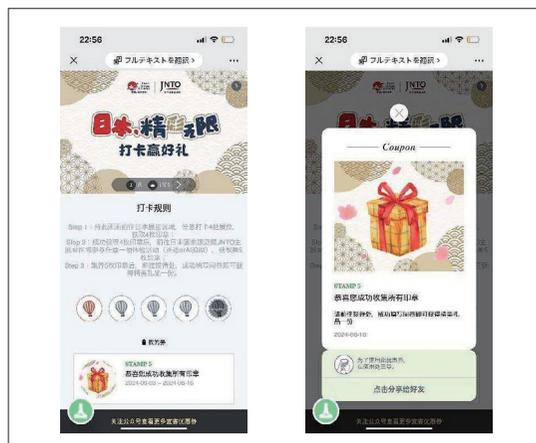


JNTO の PR ステージでの職員による派遣元 PR

る」姿が非常に喜ばれるため、観客の注目を集める意味でとても効果的だと感じました。発表中には、中国語で「加油！（頑張れ）」「我想去！（行きたい）」と合いの手が入るなど、観客と一体となって自治体の魅力を届けることができました。

2 つ目として、JNTO の「デジタルスタンプラリー施策」に参加しました。JNTO ブース、クリアブースおよび自治体ブースに電子スタンプを配置し、参加者は各ブースの指定ポイントでスタンプを集めることで、最後にノベルティグッズなどの景品が貰えるという仕組みです。

各ブース訪問のインセンティブとなるとともに、最先端で遊び心をくすぐる仕組みは参加者に大変好評で、連日スタンプを求めブースを訪問する参加者で溢っていました。デジタルが生活に浸透しており、見た目の華やかさが重視される中国において、観光 PR 施策として今後も注目されるだろうと実感しました。



スタンプラリーの参加画面

日本からの参加も是非ご検討を！

当事務所では、日中間の往来が再開したことを踏まえ、オフラインの取り組みを重視しており、中国各地で開催される旅行博覧会への出展を行っています。

2023 年度までは、中国に事務所を持つ自治体（在中国自治体事務所）に限定し出展募集を行っていましたが、日中の往来が再開したこともあり、2024 年度からは日本からの参加も想定して、対象を全自治体へ拡大しました。

出展は無料で、手続きは当事務所で代行するため、気軽に参加いただけます。中国のリアルを体験できる貴重な機会ですので、募集の際は、是非出展をご検討ください。